

文献<sup>\*1</sup>はこの分野で最も広く読まれている基礎文献であり，大学院に入学するまでに必読である<sup>\*2</sup>．特に平安時代の文化との関わり<sup>\*3</sup>，英語と日本語の言語学的関連からの考察<sup>\*4</sup>は興味深い．また，文献<sup>\*5</sup>は新たな分野を拓いた最初の論文であり，当初の問題意識を知るうえで重要である．

## 参考文献

B. フー, Q. バズ, C. クー. 『foobar の誕生』 保毛太郎 訳. 民明書房, 1995.

Foo, Bar, Qux Baz, and Corge Quux. “The birth of foobar.” *Journal of Foobar* 255 (1990): 19–454.

保毛太郎. 「ほげと千年紀—foobar の視点から—」. 『ほげ学会論文誌』 100 (2000): 20–42 頁.

保毛太郎, 比世次郎, 布我三郎. 「ほげとぴよの意味論」. 『ほげ学会論文誌』 101 (2001): 53–58 頁.

---

\*1. 保毛太郎, 「ほげと千年紀—foobar の視点から—」, 『ほげ学会論文誌』 100 (2000): 20–42 頁; Bar Foo, Qux Baz, and Corge Quux, “The birth of foobar,” *Journal of Foobar* 255 (1990): 19–454.

\*2. Foo, Baz, and Quux, “The birth of foobar” は長大な論文であり, 和訳が単行本で出ている: B. フー, Q. バズ, C. クー, 『foobar の誕生』, 保毛太郎 訳 (民明書房, 1995).

\*3. 保毛, 「ほげと千年紀—foobar の視点から—」, 25.

\*4. 同書, 30–35.

\*5. 保毛太郎, 比世次郎, 布我三郎, 「ほげとぴよの意味論」, 『ほげ学会論文誌』 101 (2001): 53–58 頁.